

京都府の未来について、一緒に考えませんか？ ～「京都府総合計画」（中間案）に対する意見を募集～

■京都府では、府政運営の羅針盤となる京都府総合計画を策定するにあたり、幅広い視点からの多様な意見を計画に反映するため、府民の皆様から中間案に対する意見を募集しますので、周知をお願いします。

1 募集期間

令和8年10月1日（木）～令和8年10月21日（水）

2 公表資料の閲覧・入手方法

（1）京都府のホームページ「「京都府総合計画」（中間案）に対する意見募集について」に掲載

（URL）<https://www.pref.kyoto.jp/keikaku/r8publiccomment.html>



（2）以下の窓口等で配付

京都府府政情報センター、各京都府広域振興局総合庁舎、京都府府税事務所、京都府立京都学・歴彩館、京都府消費生活安全センター 他

3 意見の提出方法

郵送、ファックス、電子メール、意見提出フォームのいずれかの方法で、令和8年10月21日（水）までに、ご提出ください。（必着）

（URL）<https://forms.cloud.microsoft/r/sHfLC4xLFr>



4 問い合わせ／意見提出先

◆京都府総合政策環境部総合政策室（〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町）
電話：075-414-5110 FAX：075-414-4389 Mail：sogoseisaku@pref.kyoto.lg.jp

◆山城広域振興局企画・連携推進課（〒611-0021 宇治市宇治若森7-6）
電話：0774-21-2049 FAX：0774-22-8865 Mail：y-c-kikaku@pref.kyoto.lg.jp

◆南丹広域振興局企画・連携推進課（〒621-0851 亀岡市荒塚町1-4-1）
電話：0771-24-8430 FAX：0771-24-4683 Mail：n-c-kikaku@pref.kyoto.lg.jp

◆中丹広域振興局企画・連携推進課（〒625-0036 舞鶴市字浜2020）
電話：0773-62-2031 FAX：0773-63-8495 Mail：c-c-kikaku@pref.kyoto.lg.jp

◆丹後広域振興局企画・連携推進課（〒627-8570 京丹後市峰山町丹波855）
電話：0772-62-4300 FAX：0772-62-5894 Mail：t-c-kikaku@pref.kyoto.lg.jp

【本報道発表に関するお問合せ】

総合政策環境部総合政策室	室長	米倉	TEL：075-414-4334
	企画参事	宮田	TEL：075-414-4346
地域政策室	室長	吉田	TEL：075-414-4380
	企画参事	仲村	TEL：075-414-4486



「京都府総合計画」(中間案) に対する意見募集

HPは、こちらの二次元コードからご覧いただけます。



京都府の未来について
**皆さんのご意見を
募集しています!!**



募集期間：令和8年10月1日(木)～令和8年10月21日(水)

「京都府総合計画」中間案は以下の3つで構成しています。

①将来構想

「京都が実現したい2040年の姿」を描いた構想

②基本計画

将来構想に掲げた2040年の姿を見据え、「わくわくする京都の実現に向けた15の未来像」と20の「分野別基本施策」により、今後4年間の具体的な取組を示す計画

③地域振興計画

山城・南丹・中丹・丹後の地域毎のポテンシャルを活かした各広域振興局の取組を示す計画

「京都府総合計画」中間案の入手方法

- 京都府ホームページに掲載しています。

京都府総合計画

検索

- 以下の窓口等で配布しています。

京都府府政情報センター、各京都府広域振興局総合庁舎、
京都府府税事務所、京都府立京都学・歴史館、
京都府消費生活安全センター 他

- 郵送をご希望の方は、総合政策室またはお近くの振興局までご連絡ください。(裏面参照)

意見の提出方法

- 京都府が開設する「意見提出フォーム」からご提出ください。
意見提出フォームはこちら
- 京都府ホームページから「意見記入様式」をダウンロードいただき、メールでご提出ください。
送付先: sogoseisaku@pref.kyoto.lg.jp
- 裏面の「意見記入用紙」に記入いただき、郵送、ファックス、電子メールでお送りいただくことも可能です。
⇒ 送付先は裏面をご参照ください。



<注意事項>

- ・お寄せいただいたご意見等については、これに対する京都府の考え方を整理した上で公表します。
- ・お電話による意見提出は、ご遠慮いただきますようお願いいたします。
- ・個々のご意見に直接回答いたしかねますので、あらかじめご了承ください。

「京都府総合計画」（中間案）に対する意見記入用紙

◆計画のどの部分に対する意見か、○を付けてください。

将来構想	将来構想			
基本計画	15 の未来像	分野別基本施策		数値目標
地域振興計画	山城	南丹	中丹	丹後

◆ご意見をご記入ください。

※差し支えなければ、年代、お住まいの市町村をご記入ください。

年代	20 歳未満	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 歳以上
お住まい	() 市・町・村							

＜お問い合わせ先＞

京都府 総合政策環境部 総合政策室

〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町

TEL:075-414-5110 FAX:075-414-4389

MAIL : sogoseisaku@pref.kyoto.lg.jp

山城広域振興局 企画・連携推進課 (宇治市宇治若森7-6)	電 話 : 0774-21-2049 F A X : 0774-22-8865
南丹広域振興局 企画・連携推進課 (亀岡市荒塚町1-4-1)	電 話 : 0771-24-8430 F A X : 0771-24-4683
中丹広域振興局 企画・連携推進課 (舞鶴市字浜2020)	電 話 : 0773-62-2031 F A X : 0773-63-8495
丹後広域振興局 企画・連携推進課 (京丹後市峰山町丹波855)	電 話 : 0772-62-4300 F A X : 0772-62-5894

京都府総合計画

中間案（概要版）

「総合計画」とは、平成23（2011）年に制定した「京都府行政運営の基本理念・原則となる条例」第4条の規定により、京都府のめざす方向性を明らかにするものです。

京都府総合計画は、「将来構想」と「基本計画」、「地域振興計画」によって構成しています。

将来構想

社会経済情勢の大きな変化に対応しながら、京都の魅力や精神性を未来につなぎ、「わくわくする京都」を実現するために、京都府が2040年に目指す4つの将来の姿を示したものです。

基本計画

「わくわくする京都の実現に向けて今後4年間に重点的に取り組む府政運営の方向性を示したもので、15の未来像と20の分野別基本施策により、具体的な取組を体系的に整理しています。

地域振興計画

山城・南丹・中丹・丹後の各地域のポテンシャルを活かしながら、地域ごとの振興の方向性や具体的な取組を示しています。

将 来 構 想

将来構想 目次

1. これまでの経緯
2. 社会経済情勢の変化
3. 精神性の宿る京都の営み
4. 「わくわくする京都」の実現
5. 京都が実現したい 2040 年の姿

(参考)「総合計画」の構成

「総合計画」とは、平成 23（2011）年に制定した「京都府行政運営の基本理念・原則となる条例」第 4 条の規定により、京都府のめざす方向性を将来構想、基本計画等の形で明らかにするものです。京都府総合計画は、「将来構想」と「基本計画」、「地域振興計画」によって構成しています。

1. これまでの経緯

府政の羅針盤ともいうべき「京都府総合計画」については、計画期間を1年前倒し、令和4年12月に改定したところです。

今から4年前、新型コロナウイルス感染症の拡大を抑制するため、不要不急の外出・移動の自粛や飲食店等に対する営業時間短縮の要請などが行われていました。また、社会経済情勢の停滞が、非正規雇用などの社会的に弱い立場の方々の生活により大きく影響していました。

さらに、令和4年2月に発生したロシアによるウクライナへの侵攻では、健やかな暮らしの前提である平和が脆くも失われる様子を目の当たりにすることとなりました。

こうした状況を踏まえ、「人と人との絆や交流」「府民の皆様や地域との信頼関係」「社会的に弱い立場にある方々に寄り添うこと」などの重要性を改めて認識し、「安心」「温もり」「ゆめ実現」の3つの視点に基づき、「あたたかい京都」づくりを目指すこととしたところです。

2. 社会経済情勢の変化

他方で、社会経済情勢は大きく変化しつつあり、これまでの取組の成果と課題も踏まえながら、「あたたかい京都」の上に、この間の変化に対応した新たな京都の姿を描かなければなりません。

我が国最大の構造的課題ともいえるべき人口減少は一層深刻化し、例えば、地域コミュニティの希薄化、地域のスーパーマーケットの閉店や、住民の重要な移動手段である地域交通の減便、伝統産業やエッセンシャルワーカーをはじめとする、あらゆる分野における担い手不足など、日々の暮らしや事業活動に影響が生じています。また、相次ぐ小中学校の閉校、合併・統合など教育環境にも大きな変化が生じています。

令和5年7月に、グテーレス国連事務総長は「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が到来した」と表現しましたが、気候変動は、災害の激甚化・頻発化に加え、自然景観や農林水産物、伝統産業の原材料に大きな影響を与えています。また、酷暑日などの極端な高温の増加により、熱中症などが増加するとともに、子どもたちが屋外で遊び、学ぶことが難しくなりつつあります。

AIによる技術革新は、これまでの技術の進歩とは次元を異にする深度と速度で、人々の暮らしを変えつつあります。AGI（汎用人工知能）の到来が予測されている中、人類が新たな地平に到達する可能性が示唆されている一方、人間のあり方そのものが問われています。また、一夜にして変化する雇用や安全保障を巡る環境、瞬く間に伝播するフェイク情報など、AIは、人と人との関係、働き方、学び方、創造のあり方を急速に変容させています。

中東情勢の緊迫化などの国際情勢の不安定化は、一時的なショックではなく継続的な課題となっており、エネルギー価格の高騰やサプライチェーンの分断など、私たちの暮らしや事業活動にも直接的かつ継続的な影響を与えています。

これらの変化によって、社会の不確実性が高まり、人々の置かれる環境や価値観が多様化する中で、世代、国籍、文化的背景、価値観などをめぐる社会の分断が顕在化しつつあります。デジタル技術の普及は、接する情報が偏るフィルターバブルや同質的な意見が増幅するエコーチェンバーなど、人と人とのつながりや地域社会の支え合いといった他者への共感や相互理解を弱めているとの指摘もなされています。

また、文化や自然が本来持つ意味や背景への理解が十分に継承されないまま、その外形だけが消費されることへの懸念もあります。神社仏閣、街並み、伝統産業、食文化、祭礼などが、単なる観光資源や商品としてのみ受け止められるならば、京都の持つ根源的な価値や魅力は次第に痩せ細っていく恐れがあります。

3. 精神性の宿る京都の営み

京都は、南北に長く、それぞれの地域に国内外を魅了する多様な魅力の源泉が存在します。山紫水明の景観と恵みを生み出す豊かな自然、神社仏閣や歴史的建造物、文化芸術、華道・茶道や食などの生活文化、全国トップレベルの知の集積、伝統産業から先端ものづくり産業までの幅広い産業。これらの魅力の源泉は、悠久の歴史の中で受け継がれ、育まれてきたものです。

例えば、先人たちは、自然とともに生きるものと受け止め、自然の恵みと厳しさの双方に向き合う中で、四季折々の草花、丹後の海、丹波の森、山城の茶畑、里山の営みなどに、季節の移ろいの美や命の循環の力強さを見出してきました。

こうした心根は、一輪の花や一本の枝に、草木の生命の輝きと季節の移ろいを見いだす華道にも息づいています。花をいけるという営みは、自然を切り取り、飾ることにとどまらず、限りある命と向き合い、その一瞬の姿に心を寄せる行為でもあります。

また、府内各地にある神社仏閣は、宗教施設としての役割に留まらず、人々が心を整え、自然と向き合い、過去と未来を結び付ける場として、今日まで受け継がれてきました。神社仏閣をよりどころに行われる祭礼や年中行事は、地域の人々が同じ時を過ごし、同じリズムを共有し、世代を超えて地域の記憶をつなぐ機会でもあります。

このように、長い歲月の中で、自然と向き合い、人と人との関係を結び、学び、働き、創り、受け継いできた営みの積み重ねとして、自然の移ろいを感じ取る心、目に見えない価値を大切にする姿勢、日々の暮らしの中に美や意味を見いだす感性、そして人と人との支え合いながら生きる知恵を含む精神文化である、「京都の精神性」が形作られてきました。

京都では、市井の所作、言葉遣い、食、音、香り、道具、街並み、人と人との間合いなどの営みの中に、京都の精神性を感じ取ることができます。

このような精神性の宿る京都の営みこそが、国内外の人々を魅了してやまない京都の本質的な力です。そしてまた、その精神性が、自然、文化、産業、学術、地域社会といったそれぞれの地域が有する多様な魅力の源泉を、個性を受け入れながら和をもって繋ぎ合わせるとともに、それらを磨き上げ、時代を超えて新しい価値を生み出してきました。

先人たちは、京都の精神性を生み出し、引き継ぐ工夫を重ねてきました。

人間は、情報を交換するだけの存在ではありません。顔を合わせ、同じ場に身を置き、共に食し、語らい、時に沈黙を分かち合うことによって、相手の心の動きに気づき、信頼を育み、新たな創造へと向かう存在です。こうしたことを踏まえ、先人たちは、人と人との出会い、語り合い、互いの違いを受け止めながら新しい関係を育む「社交・交流」の場を幾重にも重ねることによって、京都の精神性を育み、伝えてきました。

加えて、京都には、府域の至る所で人々が、それぞれの役割や志を持ちながら社会と関わり、その営みの中に生きる意味や喜びを見いだしてきた歴史があります。

農林水産業に携わる人、伝統産業を支える匠、地域コミュニティを守る人、福祉や医療、教育を担う人、文化芸術を創造する人、研究やものづくりに挑む人、新たな事業を起こす人、家庭や地域で日々の暮らしを支える人など、京都の精神性は、そうした一人ひとりの営みによって受け継がれてきました。

近年、世界においても、日本語の「生きがい」という考え方への関心が高まっています。生きがいとは、単に仕事の成功や経済的な豊かさを意味するものではありません。自分の存在が誰かとつながっていること、自らの役割を実感できること、日々の暮らしの中に小さな喜びや誇りを見いだせること、そして未来に向かって何かを学び、挑戦し続けることの中に、人生の意味を感じる考え方です。

こうして見れば、社会経済情勢が大きく変化しつつある中においても、京都の精神性を次世代に伝えるため、過去から受け継がれてきた伝統を静かに保存することに留まらず、社交・交流の場において重層的な交わりを持ちながら、一人ひとりが生きがいをもって未来に挑戦する京都であり続けなければいけません。

4. 「わくわくする京都」の実現

今、私たちに求められているのは、代々受け継いできた魅力の源泉を、懐古的に守るだけでなく、その背後にある意味、物語、祈り、関係性といった京都の精神性をこれからの時代にふさわしい形で育て直し、次世代へ伝えていくことです。

京都の精神性をつないできたのは、その時々に関都に住まい、京都に結び付いてきた先人たちです。その営みは、勇気を出してチャレンジしたその先に、あるいは未知との出会いや新たな体験の先に祖先から引き継いだ価値を磨き上げることもあれば、自分の足元や周囲を見つめ直すことで、これまで当たり前のように身近にあった価値に改めて気づかされることもあったはずです。

いずれにおいても共通していることは、その営みの瞬間に、先人たちは「わくわく」し、喜びや充実感に満たされていた、ということはないでしょうか。

「わくわく」を感じる瞬間は、お一人おひとりによって異なります。けれども、京都には、千年を超える歴史の中で培われてきた、一時的な高揚感や消費される楽しさだけではない、静かでありながらも真・善・美を求める永続的な「わくわく」があります。

- ー 豊かな自然と共に生き、暮らしの中で四季折々の移ろいを感じながら、ゆったりとした時間の流れの中で、多様な個性の響き合いを楽しむ。
- ー 手塩にかけて育てた木材が、匠の技によって神社仏閣に用いられ、永く愛され、次の世代の祈りや誇りへとつながっていく。
- ー 子どもたちが地域の祭りや自然、ものづくり、文化芸術に触れ、自分たちの暮らす地域に誇りを持ち、未来の担い手としての自覚を育てていく。
- ー 高齢者が長年培ってきた知恵や経験を地域で活かし、若者や子どもたちと交わりながら、自らの役割と生きがいを実感して暮らしていく。

- ー 自然、文化、地場産業などの地域が育んできた魅力が結び目となり、住民と国内外の人々が出会い、語り合い、地域の暮らしがさらに豊かなものになる。
- ー アカデミアの知や京都企業の技術を活かしながら、年齢や性別に関わらず誰もが挑戦でき、生み出されたイノベーションが次の挑戦へとつながっていく。

これらの「わくわく」の根底には、安心感が不安な気持ちを上回り、安心の上に期待感が生まれるという構造があります。人は、不安に押しつぶされているときには、他者と出会い、学び、挑戦する力を十分に発揮することができません。だからこそ、府民の皆様の暮らしの安心・安全を守ることは、あらゆる政策の土台です。

京都には、こうした安心感の先にある「わくわく」を生み出す工夫に溢れています。例えば、互いの振る舞いを予測・理解できるようにする「型」や「作法」の存在は、相手を尊重し、程よい距離を保ちながら、安心して同じ場を共有するための知恵です。

茶道においては、特定の型や作法にしたがって、場が整えられ、居ずまいを正して亭主と客人が同じ時を共有します。その安心感の上に、設え、道具、菓子、掛け軸、庭の景色などを通じて、季節や相手への思いを汲み取ることによって、新たな交流を生み出してきました。

また、地蔵盆においては、町内を挙げて準備を整え、ともに時を過ごす中で、子どもたちや新たに地域に加わった人々が、その地域に受け継がれてきた型や作法と言うべき風習に触れ、安心感と帰属意識をもってコミュニティの一員となってきました。

こうした安心感を生み出す京都文化の型や作法を大切にしながら、安心の土台の上に、人とのつながりが生まれ、自分の役割を実感し、新しい出会いや学びに心が動き、未来に向かって一步を踏み出したくなる。この、安心、多様性とともに、挑戦と創造によって生まれる、前向きな生命感が京都ならではの「わくわく」であると考えます。

5. 京都が実現したい 2040 年の姿

私たちは、「あたたかい京都」の上に、この間の社会経済情勢の変化を踏まえ、「安心」「はぐくみ」「輝き」の3つの視点に基づき、子どもから、若者、現役世代・子育て世代、お年寄りまで、誰もが安心の土台の上で人とつながり、自らの役割と生きがいを実感し、未来に向かって挑戦できる「わくわくする京都」をつくり上げるべく、新しい総合計画を策定することといたしました。

具体的には、それぞれの地域において京都の精神性が受け継がれ、地域に誇りを持つことができるとともに、独自の精神性によって世界を魅了し続ける「わくわくする京都」を実現するための 2040 年の姿として、以下の4つを提示します。

【安心】

① 安心・安全が実感できる京都府

安心・安全は、あらゆる活動の土台となるものであり、府内どの地域においても、府民の皆様が健やかに暮らし続けることができる京都府を目指します。

〔対応する未来像〕

未来像①：住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる京都

未来像②：災害や犯罪等からの安心・安全な京都



※本計画の取組と SDGs の 17 の目標との関連性について示しています。

【はぐくみ】

②世代を超えて交流し、多様な主体が生涯にわたって活躍できる京都府

一人ひとりの尊厳と人権が尊重され、多様な個性が受け入れられる環境の中で、年齢・性別などに関わらず、誰もが教育や学び直しの機会を通じて、生涯にわたって学び続け、能力を発揮し、交わることでできる京都府を目指します。

〔対応する未来像〕

未来像③：笑顔があふれる「子育て環境日本一・京都」

未来像④：地域や海外とつながり、夢を描ける京都

未来像⑤：誰もが生涯にわたって輝き続けられる京都



【輝き】

③挑戦とイノベーションの循環により力強く成長する京都府

匠の技が活きる伝統産業、ニッチトップの技術を持つ中小企業、先端ものづくり技術を持つ世界的企業、新たな潮流を生み出すスタートアップなど、多様な産業において、絶えず挑戦とイノベーションの循環が回り続ける京都府を目指します。

〔対応する未来像〕

未来像⑥：経済の好循環によって文化や伝統が受け継がれる京都

未来像⑦：芸術やスポーツを通じて感動が生まれ心が躍る京都

未来像⑧：成長分野への投資が働く人々の活力を生み続ける京都

未来像⑨：イノベーションで世界をリードする産業創造都市・京都

未来像⑩：世界の知が集う文化学術研究拠点・京都



④地域の魅力が磨き上げられ精神性が受け継がれる京都府

地域の生活、文化を形作り、国内外の人々との交流の懸け橋となる地域の魅力が磨き上げられ、次の世代に受け継がれる京都府を目指します。

〔対応する未来像〕

未来像⑪：訪れる人と地域が交わり出会いが広がる京都

未来像⑫：地域の食が誇りと豊かさをつなぐ京都

未来像⑬：北部地域の多彩な魅力がつながり輝く京都



【基盤整備等】

そして、これら4つの「2040 年に目指すべき姿」の実現と、府域の均衡ある発展を支える土台として、基盤整備を着実に推進します。また、京都市との協調により行政課題を乗り越え、新たな施策を力強く推進し、その成果を府内全ての市町村に広げることによって、府全域の発展を目指します。

〔対応する未来像〕

未来像⑭：人・モノ・情報が行き交い、活力があふれる京都

未来像⑮：府市協調を更に深化させ府全域が発展する京都

基 本 計 画

基本計画 目次

(1) わくわくする京都の実現に向けた15の未来像

安 心

① 住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる京都

支える人もやりがいを持って働き続けることができ、府民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる京都を実現

② 災害や犯罪等からの安心・安全な京都

防災・減災対策や危機管理体制を強化するとともに、犯罪や交通事故から府民を守り、安心・安全を実感できる京都を実現

はぐくみ

③ 笑顔があふれる「子育て環境日本一・京都」

若者や子育て世代が希望を持って子どもを産み育てられ、子どもとその育ちを支える人の笑顔があふれる京都を実現

④ 地域や海外とつながり、夢を描ける京都

子どもや若者が多様な人々や文化と出会い、夢や志を描いて挑戦でき、挑戦と応援が世代を越えて循環する京都を実現

⑤ 誰もが生涯にわたって輝き続けられる京都

多様な個性や価値が受け入れられ、誰もが社会とつながり、学び直しながら生涯にわたり挑戦し活躍できる京都を実現

輝 き

⑥ 経済の好循環によって文化や伝統が受け継がれる京都

文化や伝統の担い手と多様な主体を結び、経済の好循環を生み出すことで、京都の精神文化を次世代へ受け継ぐ京都を実現

⑦ 芸術やスポーツを通じて感動が生まれ心が躍る京都

子ども・若者からお年寄りまで、誰もが芸術やスポーツに関わり、感動や楽しみが生まれ、心が躍る京都を実現します。

⑧ 成長分野への投資が働く人々の活力を生み続ける京都

成長分野への投資で中小企業の挑戦を後押しし、産業の強みと大学の叡智を結び、世界で活躍する企業が生まれる京都を実現

⑨ イノベーションで世界をリードする産業創造都市・京都

京都産業の強みと伝統を活かし、国内外から投資や人材を呼び込み、世界に伍する新たな産業創造都市・京都を実現

⑩ 世界の知が集う文化学術研究拠点・京都

世界の研究者や企業等が集い、交流から革新が生まれ、研究成果の都市実装を通じ近未来を体感できる文化学術研究拠点を実現

- ⑪ 訪れる人と地域が交わり出会いが広がる京都
広域周遊や夜型観光などを通じて新たな出会いを広げ、訪れる人も地域の人々も交流の価値や魅力を実感できる京都を実現
- ⑫ 地域の食が誇りと豊かさをつなぐ京都
農林水産業の生産性と付加価値を高め、地域の食を未来に受け継ぎ、担い手が育ち、誇りと豊かさが広がる京都を実現
- ⑬ 北部地域の多彩な魅力がつながり輝く京都
北部地域で安心して暮らせる環境を整え、多彩な魅力をつなぎ、住む人と訪れる人の交流から新たな価値とイノベーションが生まれる京都を実現

基盤整備等

- ⑭ 人・モノ・情報が行き交い、活力があふれる京都
広域・地域交通やデジタル基盤を整備し、府域の均衡ある発展を図り、国内外との交流と活力が生まれる京都を実現
- ⑮ 府市協調を更に深化させ府全域が発展する京都
府市協調の更なる深化により、行政課題を乗り越え、その成果を府内全ての市町村に広げることで、府全域が更に発展する京都を実現

(2) 分野別基本施策

- ① 希望あふれる子育て
- ② 夢を実現する教育
- ③ 健やかで社会と繋がりを持ちながらの人生100年時代
- ④ 安心して生活できる医療・介護・福祉の実現
- ⑤ 人権が尊重される社会
- ⑥ 男性も女性も誰もが活躍できる社会
- ⑦ 障害者が暮らしやすい社会
- ⑧ 留学生・外国人が生き生きと暮らせる社会
- ⑨ コミュニティが大切にされる社会
- ⑩ 誰もが親しみ夢が広がるスポーツ
- ⑪ 文化が活きる京都の推進
- ⑫ 産業の創出・成長・発展と継承
- ⑬ 交流機会を創出する観光
- ⑭ 雇用の安定・確保と人材育成
- ⑮ 農林水産業の成長産業化
- ⑯ しなやかで災害に強い地域
- ⑰ 犯罪や事故のない暮らし
- ⑱ 脱炭素社会へのチャレンジ
- ⑲ 成長・交流・情報・暮らしの基盤づくり
- ⑳ もうひとつの京都の推進と地域連携

(3) 基本計画の数値目標について

(4) 基本計画の推進

◇「基本計画」の構成

基本計画は、将来構想に掲げた 2040 年の姿を見据えながら、それを今後 4 年間の具体的な府政運営へと結びつける実行計画です。

人口減少の進行、気候変動の深刻化、AI による技術革新、国際社会の不安定化など、社会経済情勢は大きく変化しつつあります。こうした時代にあって、「京都の精神性」を次世代に伝えていくためには、今を生きる我々が「わくわく」し、喜びや充実感に満たされている必要があります。

「わくわく」は、安心・安全な暮らしを土台として、一人ひとりが自らの可能性を発揮し、異なる人々や地域、文化、産業と交わる中から生まれるものです。

そのため、人口減少下において、単に人口の減少に合わせて社会を縮小させるのではなく、京都に暮らす人、働く人、学ぶ人、訪れる人、離れていても京都に関わる人が、それぞれの力を持ち寄り、地域をともに支え、新たな価値を生み出す魅力的な社会を構築します。

また、京都の文化や精神性を消費するだけでなく、そこから生まれる経済的価値を、文化の担い手の所得や次世代への文化教育、材料や道具の確保、地域の営みの継承へと還元し、その蓄積が新たな魅力と経済的価値を生み出す好循環を構築します。

さらに、京都府と京都市が協調し、文化、大学、産業、観光、人材等の集積を京都府全域の発展につなげる原動力とするとともに、市町村、企業、大学、NPO、地域団体等の多様な主体と連携し、京都全体を、学び、挑戦し、交流できるフィールドへと育てます。

こうした考え方の下、今後 4 年間に重点的に取り組む方向性を示す「わくわくする京都の実現に向けた 15 の未来像」と、各行政分野における施策を体系的に示す「分野別基本施策」を設けました。

(1) わくわくする京都の実現に向けた 15 の未来像

「安心・安全が実感できる京都府」「世代を超えて交流し、多様な主体が生涯にわたって活躍できる京都府」「挑戦とイノベーションの循環により力強く成長する京都府」「地域の魅力が磨き上げられ精神性が受け継がれる京都府」という 2040 年の姿とそれらを支える基盤整備を、具体的な政策領域へ展開するため、基本計画では「わくわくする京都の実現に向けた 15 の未来像」を掲げます。

15 の未来像は、単なる分野ごとの施策の列挙ではありません。「安心」「はぐくみ」「輝き」の3つの視点と、土台となる基盤整備や府全域の発展のための府市連携の観点から、「実現したい姿」を示した上で、その実現に向けた「主な方策」を掲げています。これにより、2040 年を展望した将来像と、計画期間である 4 年間に取り組む施策とを結び付け、府民、市町村、企業、大学、地域団体、NPO など多様な主体と共有できる形で、府政の方向性を明らかにするものです。

（２）分野別基本施策

分野別基本施策は、「将来構想」で掲げた将来像の実現に向けて、20の分野ごとに「4年間の対応方向・具体方策」、「数値目標」により、目標達成に向けた方向性や手段を体系的に明らかにしています。

なお、具体方策は、計画策定時点で想定される主な取組を示すものであり、実際の事業については、社会経済情勢の変化、府民ニーズ、事業効果、財政状況、関係機関との調整状況等を総合的に勘案し、毎年度の予算編成を通じて決定します。あわせて、計画の進捗状況を把握し、数値目標や府民意識、学識経験者等の意見も踏まえながら、必要に応じて方策を見直し、社会の変化に柔軟に対応していきます。

この基本計画を通じて、京都府は、市町村や多様な主体との連携を一層深めながら、各地域において、人口減少、気候変動、技術革新、国際社会の不安定化という大きな変化の中にあっても、府民一人ひとりが安心の土台の上に、自らの役割と生きがいを実感し、未来に向かって挑戦できる「わくわくする京都」の実現を目指します。

◇計画期間

令和9(2027)年度から令和12(2030)年度末まで

◇本計画における地方創生の位置づけ

本計画は、府政運営の羅針盤となる総合計画であり、地方創生に関する施策についても定められていることから、まち・ひと・しごと創生法第9条に基づく「都道府県まち・ひと・しごと創生総合戦略」としても位置づけられるものです。

(1) わくわくする京都の実現に向けた15の未来像

未来像① 住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる京都

地域包括ケアの理念を基盤に、多様な主体が地域や分野を越えてつながり、医療や介護サービスを提供する「京都地域支えの輪（仮称）」を推進し、支える人もやりがいを持って働き続けることができ、府民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる京都を実現します。

● 持続可能で質の高い医療・介護が受けられる体制の構築

(主な方策)

- ・ 地域医療機関の機能や役割分担を深化させる「医療あんしんネットワーク」を構築するため、重点地域を設け、大学との連携体制を強化するなど、地域医療構想調整会議における医療機関の役割分担の議論を促進します。
- ・ 広域救急搬送や地域内での搬送体制の充実に向けた検討を行うとともに、地域の医療関係者や医療関係団体と連携しながら、へき地等でのオンライン診療の活用を進めます。併せて、患者の通院手段の確保や広域の移動を伴う受診への支援などを検討します。
- ・ 人口減少や介護サービス需要の変化を見据え、将来にわたり必要な介護サービスを安定的に提供できるよう、介護事業者の経営基盤強化や事業者間の連携・協働を促進するとともに、介護・福祉分野における外国人材の受入れのため、諸外国との連携強化や、安心して働き地域社会の一員として活躍できる環境づくりなどを推進します。

● 誰もが地域社会の一員として互いに支え合い、生きがいをもって暮らすことができる社会の実現

(主な方策)

- ・ 高齢者をはじめとする地域住民が、地域とのつながりを持ちながら、生きがいや役割を持っていきいきと暮らし続けられるよう、多様な居場所や活動の場への参加を促進するとともに、高齢者が持つ知識や経験を、地域活動やボランティア活動などにつなげる「地域活動支援ネットワーク（仮称）」の取組を進めます。
- ・ 地域住民の誰もが気軽に参加できる「つながるひろば」を創出し、文化をはじめとする地域資源の活用などによる地域の魅力発信と併せて、多世代交流を促進します。

未来像② 災害や犯罪等からの安心・安全な京都

頻発する自然災害や新興感染症など府民生活を脅かす様々な事象に的確に対応するため、防災・減災対策や危機管理体制を強化するとともに、犯罪や交通事故から府民を守り、誰もが日々の暮らしの中で安心・安全を実感できる京都を実現します。

● トップレベルの危機管理体制と地域のつながりで命と暮らしを守り抜く体制の構築

(主な方策)

- ・ 災害時に自宅や地域で安心して過ごせるよう、耐震化・不燃化、食料や生活必需品の備蓄を促進することで、自宅や避難先となる施設を防災シェルターとする「京都まるごと『防災シェルター』化」に取り組み、府民一人ひとりが自分に合った避難方法を選択できる体制を構築します。
- ・ 日中も地域に居ながら活動されている方や消防団員など、災害時に実際に動ける方に、発災直後の避難所開設や、地域内での声掛けなどを行う「地域防災の守り人（仮称）」として活動いただき、孤立地域など受援が困難な地域でも命を守るための72時間に対応できる体制づくりに取り組みます。
- ・ SNS上で拡散する偽・誤情報から府民の安心と安全を守るため、関係機関と連携して迅速に事実確認・訂正情報を発信する体制の強化に取り組みます。

● 安心・安全が実感できる犯罪や事故の起こりにくい社会づくり

(主な方策)

- ・ AI等を活用した犯罪防御システムの高度化や、カメラ・ドローン等の科学技術の積極的な活用等、DXの推進により警察活動の充実・強化を図り、特殊詐欺や匿名・流動型犯罪グループによる犯罪行為等、府民に不安を与える犯罪等の根絶に向けた取組を推進します。
- ・ 通学路における事件・事故や犯罪実行者を募集するいわゆる「闇バイト」など、青少年が犯罪の被害者にも加害者にもならないよう、SNSやアプリ等を活用した防犯教育や危機回避能力を高める取組を推進します。

未来像③ 笑顔があふれる「子育て環境日本一・京都」

「子育て環境日本一・京都」の実現に向け、オール京都の推進体制の構築や全国的にも先進的な取組を進めてきました。これらを土台として、子どもや子育てに関わる主体が抱える課題を深掘りし、更に取組をバージョンアップすることにより、若者や子育て世代が希望を持って子どもを産み育てられ、子どもたちとその育ちを支える人たちの笑顔があふれる京都を実現します。

● 子育て世代が子どもとともにいきいきと輝き、若者に選ばれる環境の構築

(主な方策)

- ・ 子育て世代や若者をはじめとする府民との意見交換や、子育て環境日本一推進会議の参画団体とともに課題の洗い出しと深堀を行い、「子育てと働くことの両立」や「子どもが社会とつながり、生き抜く力を養う」などの新たな視点を取り入れた「京都府子育て環境日本一推進戦略」を策定します。
- ・ 「家庭での男性活躍」を進めるため、企業における男性の育児休業の取得率向上及び取得期間延伸の促進に向けた意識改革など、働きやすい職場環境づくりを支援するとともに、家事・育児に触れ合う機会を拡げ、家庭や地域などあらゆる場で、みんなで家事・育児を担うことへの機運醸成に取り組めます。
- ・ 毎月１９日を基準に、「きょうと・親子お出かけの日」を創設し、スタジアム等の府内公共施設の無料開放や親子利用による料金優遇などの実施、また、民間団体等と連携した親子向けイベントの開催等、親子連れで楽しめるコンテンツの創出を図るとともに、キッズフレンドリー施設の更なる拡充などの取組とあわせて、親子でわくわくしながら外出できる京都を目指した風土を醸成します。

未来像④ 地域や海外とつながり、夢を描ける京都

歴史を振り返れば、変化を恐れず挑戦し、次の時代をつくってきた中心には常に若者の力がありました。子どもや若者が地域や海外とつながり、多様な人々や文化との出会いを通じて自らの夢や志を描き、果敢にチャレンジできる環境を社会全体で支える京都を実現します。また、挑戦する人を地域全体で応援し、応援された人が次の挑戦者を支える側へと回ることによって、挑戦と応援が世代を越えて循環する地域社会をつくります。

● 子どもたちが社会との結びつきで志や夢にチャレンジできる環境の整備

(主な方策)

- ・ 新たな価値を創造する力をはぐくむため、発達段階に応じて、早い段階から、地域産業や伝統芸能、職人技など京都のほんまもんや実社会に触れることで自らの「好き」を発見し、知識と経験を積み重ねる機会を創出します。また、その「夢」や「やってみたい」という想いを社会課題と結び付け、子どもたちの発案により京都の未来をデザインし、実現につなげる取組を推進します。
- ・ グローバルな視野をもって社会で活躍できる人材の育成をめざし、産業界や大学、京都市と連携し、夢や志を持つ府内すべての高校生等を対象に、自ら課題解決に挑む海外探究留学の機会を提供するとともに、府立高校生を対象とした語学力向上に向けた海外留学支援を実施します。さらに、留学経験者や留学支援企業、大学等が継続的につながる「京都イノベティブ人材コミュニティ（仮称）」を創設します。
- ・ 学生をはじめとした若者が地域の魅力を、自ら見て、聞いて、考え、活動する機会を広げるため、大学生と自治会や企業等をつなぎ、祭りや地域活動等に継続的に参画できる「大学生地域つながりプログラム（仮称）」を創設します。
- ・ 地域や企業とのつながりを「ガクチカ」としてアプリ等で可視化する「京都学生チャレンジパスポート（仮称）」を整備し、企業とのマッチングによる定着や、末永く京都につながり続ける関係人口をはぐくみます。

未来像⑤ 誰もが生涯にわたって輝き続けられる京都

わくわくすることに性別や年齢などの制限はありません。多様な個性や価値が受け入れられる環境の中で、誰もが地域や社会とつながり、役割を見つけ、時にはリスクリングや学び直して自身をアップデートしながら、生涯にわたって挑戦し、活躍し続けられる京都を実現します。

● 性別、年齢、国籍等に関わらず多様な主体が役割や繋がりを持ち活躍できる環境づくり

(主な方策)

- ・ 京都の大学、企業、行政が連携し、先端研究と産業課題を結ぶ「京都産学公連携大学院構想（仮称）」を検討します。また、企業の資金、研究者、実証環境等を大学へ提供する契約学科の創設を促進し、企業課題を扱う共同研究やPBL、長期インターンシップを通じて博士人材を育成します。
- ・ 性別を問わず多様な働き方を推進するとともに、新たなビジネスにチャレンジする女性の起業を支援するため、起業を志す女性が身近に相談可能な「京都女性起業家応援団（仮称）」を産官学金により構築します。
- ・ 地域における女性の生きづらさの解消や更なる女性活躍に向け、女性同士の交流や新たなネットワークを促す「女性のオフ会」を府内各地で開催するほか、女性人材の育成や地域団体への女性参画に関する好事例の共有・情報発信などによる気運の醸成に取り組み、地域で活躍する女性を総合的に支援します。
- ・ 「就労困難者特化型ICT就労支援センター（仮称）」を設置し、ICTやXR等を活用しながら、障害のある方の就労を推進します。
- ・ 外国人材が地域で働き活躍できるよう、日常生活に必要となる日本語や生活上のルールやマナーに加え、京都や日本の文化・歴史等を学ぶ「京都式インテグレーション研修コース（仮称）」を提供し、外国人材やその家族の円滑な地域定着に向けた取組を実施します。
- ・ 人権教育・啓発の推進、相談体制の整備を図ることで、人権尊重の共生社会づくりを推進します。

● 誰もが学び直しなどを通じてチャレンジやイノベーションが循環する環境づくり

(主な方策)

- ・ 企業による人材育成を、働く人一人ひとりの意欲や成長ビジョンと企業の成長を高める人的資本への投資として捉え、大学や研究機関等と連携したリスクリングや、学んだ成果を新規事業、業務変革、社会課題の解決に生かす取組等を支援します。また、若手への裁量付与やキャリア形成支援、企業や業種の枠を越えた人材交流等を促進し、学びと挑戦の好循環を生み出します。

未来像⑥ 経済の好循環によって文化や伝統が受け継がれる京都

京都では、長年にわたる営みの積み重ねによって、文化芸術、生活文化、伝統工芸などの「京の和」が暮らしに息づき、独自の精神文化が育まれてきました。このような京都の精神性は、国内外の人々を魅了し、府民の心を支え、人と人とを結びつける大切な「資産」です。その担い手とその価値を活かして活動する多様な主体を結びつける取組を始動し、経済の好循環を生み出すことによって、次世代へとつないでいく京都を実現します。

● 「『京の和（輪）』つなぎプロジェクト（仮称）」の推進

(主な方策)

- ・ 伝統産業の職人や文化芸術・生活文化の担い手と、京都企業や宿泊・飲食・小売・交通などの京都の魅力を活かして事業を行う企業などを結び付ける、「京都コモンズ・プラットフォーム（仮称）」を構築し、京都に関わる幅広い主体が精神性の伝承者となる仕組みを創出します。
- ・ 民藝運動発祥の地である京都から、京都と世界の工芸の魅力や価値をアートやデザインの視点で再評価し、生活の中の「美」を発信する「Kyoto YouMe Triennale」を開催します。
- ・ 地域住民が、歴史や茶道・華道、その他の生活文化、産業など、京都をより深く知り、学びを育むため、社寺や工房等で文化芸術の担い手に触れる「京都オープンコミュニティ（仮称）」を市町村とも連携して創出します。
- ・ 日本独自の「銭湯文化」等を育み、地域コミュニティの活性化や災害時の住民支援の機能を有する銭湯を将来にわたって守るため、事業承継のためのモデル事業の取組を進めます。

未来像⑦ 芸術やスポーツを通じて感動が生まれ心が躍る京都

自分の「好き」をきっかけとした芸術やスポーツとの出会いは、仲間や地域との絆を育み、新たな出会いや相互理解を広げるとともに、これらの分野で京都を背負い国内外で活躍する次世代を育みます。子ども・若者からお年寄りまで、誰もが芸術やスポーツに関わり、感動や楽しみが生まれ、心が躍る京都を実現します。

● 芸術やスポーツに親しみ、交流やつながり、生きがいを育む環境づくり

(主な方策)

- ・ 「Art Collaboration kyoto」を東京で開催されるイベント「アートウィーク東京」と連動させ、海外のアートフェアと連携することで、国内外からの来京を促し、京都から日本のアート市場を活性化させるとともに、京都の作家が国際的に評価され、継続的に京都で活動できる仕組みを構築します。また、大学等と連携し、国際的なアートイベントなどの企画・運営や資金調達などを担うマネジメント人材をはじめ、文化を支える人材を育てます。
- ・ 少子化が進む中でも、子どもたちがやりたいスポーツに主体的に取り組み、夢やあこがれを育めるよう、府内各地域においてプロスポーツチームやトップアスリートと連携した体験教室や交流事業を推進し、スポーツの裾野拡大を図るとともに、心揺さぶられる体験の提供を通じて子どもたちの挑戦意欲や可能性を引き出す機会を創出します。
- ・ 京都の若者が将来の目標を持てるよう、バレーボール等の新たなプロスポーツチームの創出や定着を支援するとともに、スポーツを通じた地域のにぎわいづくりや交流の促進を図ります。
- ・ ワールドマスタースゲームズ2027関西を契機とした、生涯スポーツ等への機運の高まりを継続・発展させ、年齢・性別・障害の有無に関わらず、全ての府民がスポーツに親しみ、交流できる環境の充実を図るなど、スポーツを通じた地域づくりを推進します。
- ・ 国民スポーツ大会3巡目の開催については、国において大会の在り方や開催方法等の見直しが進められていることを踏まえ、検討を進めます。

未来像⑧ 成長分野への投資が働く人々の活力を生み続ける京都

京都の中小企業は、高い専門性や技術力でものづくりや伝統産業を支え、大企業の成長にも寄与する競争力の源泉です。成長分野への投資を呼び込み、高付加価値化や生産性の向上を通じて経営基盤を強化することで、その挑戦を後押しするとともに、中小企業の強みと京都のアカデミアの叡智を結び付け、継続的に伴走支援を行うことにより、グローバルニッチトップが次々と生まれ続ける京都を実現します。

● 人材の確保・定着と事業承継による、安定的な経営環境の構築

(主な方策)

- ・ 産官学金など多様な主体の参画のもと「未来京都・人づくり推進機構（仮称）」を設立し、府内企業への人材確保・育成・定着や職場環境整備への支援などをオール京都で推進します。
- ・ 事業承継を機に成長する中小企業を創出するため、後継者が行う設備投資や新業態開発に対し、民間の金融機関が積極的に投融資する「スタートアップ型事業承継支援プログラム」を推進します。

● 京都企業の技術やブランドを活かした高付加価値化等の実現

(主な方策)

- ・ 農業、製造業、卸・小売業、サービス業等あらゆる産業の中小企業・小規模事業者のDX推進に向け、大企業、大学、AIベンチャー等と連携し、AI・IoT等を活用した生産性の向上や経営革新を支援するとともに、地場産業産地、地域産業群における、技術やノウハウ等の強みを生かした高付加価値化の取組を支援することで、地域の産業が持続できる仕組みづくりを行います。
- ・ 北部産業創造センターや丹後・知恵のものづくりパークを核として、技術の高度化に対応するための「ネットワーク型設計開発支援システム（CAE）」の活用等により、新産業の創出に向けたオープンイノベーションを促進し、専門人材の不足など北部地域の中小企業が持つ課題解決を図りながら試作開発の高速化や技術の高度化を進めます。

未来像⑨ イノベーションで世界をリードする産業創造都市・京都

京都には、多様性という言葉だけでは括れない強烈な個性や文化を持ち、規模ではなく専門分野の技術やサービスで世界一を誇る企業が数多く存在します。こうした京都産業の強みと伝統を活かし、府内各地に特色あるテーマを掲げて、企業・人材の集積や交流を促す産業創造拠点を整備してきました。これまでに築いてきた基盤を活かし、産業創造リーディングゾーンで生まれた成果を府域全体のみならず、世界へ波及させながら、新たな挑戦を次々と花開かせるとともに、国内外から投資や人材を呼び込み、世界に伍する産業創造都市・京都を実現します。

● **KYOTO伝統こそが最先端プロジェクトの推進**

(主な方策)

- ・ 「Kyo-Densan-Biz（伝統産業ビジネス支援拠点）」等が、匠の技術を生かし、異業種とのマッチングを通じた商品開発やブランディング、国内外での市場開拓、商談等ができる人材育成等を伴走支援します。
- ・ 京都のテキスタイルが、ファッションやインテリア業界等の国内外の様々なブランドにおいて活用され、経済的・産業的価値を生み出せるよう、西陣織・京友禅・丹後織物の3つの産地と連携し、中間流通を担う商社機能やトレーサビリティの確立、インターンシップの実施による人材確保、若手職人の育成等の取組を進め、生産体制の再構築や分業制の維持をめざします。

● **ZET KYOTOプロジェクトの推進**

(主な方策)

- ・ 脱炭素テクノロジー（ZET: Zero Emission Technology）関連スタートアップ企業と事業会社等のさらなる集積・交流の促進や、ZET-Valleyにおける地域住民等を巻き込んだ取組の成果を生かし、最先端技術を活用した新事業の創出や社会実装を加速させるとともに、宮津エネルギー研究所跡地を核としたサステナブルパークを形成し、脱炭素社会の実現に向けた取組を進めます。

● メディア芸術産業の都プロジェクトの推進

(主な方策)

- ・ 京都に集積するメディアコンテンツ関連企業や教育機関などを繋ぐ「メディア芸術ナショナルセンター（仮称）」の関西館を関西文化学術研究都市に誘致するなど、世界中のクリエイターや研究者とともにクロスメディア産業を創造します。
- ・ 太秦をはじめとする映画関係企業と連携し、時代劇や映画制作を通じて培われてきた制作技術やノウハウを次世代へ継承するとともに、その知見にA I等の先端技術を掛け合わせ、映画・映像、ゲーム、マンガ、アニメなどの分野を横断して活躍できるクリエイター人材を育成します。

● A I × 半導体 × ものづくり産業プロジェクトの推進

(主な方策)

- ・ 京都が強みを持つパワー半導体や光半導体などの分野において、府内の半導体関連企業が半導体の製造・活用の観点で活躍できるよう、A I・半導体の目まぐるしい技術の進歩や需要の高まりなどの動向を見据えた戦略に基づき、産学公が交流し、中小企業の参入のきっかけづくりとなる場の運営・拡大などにより、国内外の研究者等との協業の促進などの取組を推進します。
- ・ 製造インフラ等のA I化に伴いサイバー上での安全確保の備えが重要となるため、サイバーセキュリティに対する意識の向上や人材育成など、中小企業が安全確保対策を展開するための環境整備を進めます。また、多様な地域の特性を生かし、フィジカルA I分野の成長にふさわしい研究開発と実証実験の場の構築に取り組み、A I・半導体関連分野に挑戦する企業をサポートします。
- ・ 大学のまち・京都の強みを生かして、A I・半導体人材の育成に取り組む関西の大学と連携し、若年期から半導体産業を担う人材を育成するとともに、府内の半導体関連企業の技術交流や海外の研究機関との共同研究プログラムを通じた交流等による企業のキャリア支援に取り組みます。

● スタートアップの都KYOTOプロジェクトの推進

(主な方策)

- ・ 国際スタートアップ・カンファレンス「IVS」や、世界最大級のショーケースイベント「SXSW」への出展等を通じた海外ネットワークの構築を促進するとともに世界と京都を結び、スタートアップ企業や大学、投資家等の多様な主体を呼び込むスタートアップコミュニティを創設し、交流と共創を通じて、スタートアップ企業の創出・成長を支える持続可能なエコシステムの形成を図ります。
- ・ 京都の大学・研究機関が有する知の集積を生かし、ディープテック分野での起業を後押しするため、「IVS」の開催等を起点に、海外インキュベーター等の長期的な成長を支える海外からの人材及び投資を呼び込むとともに、EIR（客員起業家）の活用等により、挑戦できる環境の形成を図ります。

● アート&テクノロジープロジェクトの推進

(主な方策)

- ・ アート&テクノロジー・ヴィレッジ京都（ATVK）を核として、アートとテクノロジーの融合により新産業の創出をめざします。また、異業種・異分野によるオープンイノベーションを推進し、新たなイノベーションを生み出します。

● 京都フードテックプロジェクトの推進

(主な方策)

- ・ 農林水産業のスマート化や気候変動への対応、新たな食品技術やバイオプロセス（発酵等）の開発など、京都ならではのフードテックの取組を推進するために府内の企業や大学をはじめ、EU諸国とも連携し、共同研究や学術交流を進めます。
- ・ 新たに開設する「京都プレミアム中食オープンイノベーションラボ（仮称）」において、企業や大学と連携し、機能性食品等の加工研究や未利用資源の活用に関する共同研究を推進するとともに、販売戦略に応じて、企画から試作、分析まで一気通貫で国内外での競争力を備えた付加価値の高い商品開発を支援します。

未来像⑩ 世界の知が集う文化学術研究拠点・京都

関西文化学術研究都市に、世界中から研究者、企業、投資家などが集い、分野を越えた交流からオープンイノベーションが生まれ続ける拠点を形成します。また、研究成果の都市への実装や、自動運転などを活用した移動環境の向上を進めるとともに、交通ネットワークの充実を図り、近未来を体感できる文化学術研究拠点を実現します。

● 国内外の連携と技術研究・実装・事業拡大の循環、交通ネットワークの充実

(主な方策)

- ・ 関西文化学術研究都市を核として、関西圏における東西軸を意識した広域連携を推進するとともに、研究・実証を支える制度的枠組みの新設及び活用などを通じて、「グレーター学研都市（仮称）」として広がりを持つエリアの形成に取り組みます。
- ・ 関西文化学術研究都市と連携を進める城陽市東部丘陵地を新たなクラスターとして位置づけ、関西文化学術研究都市等の研究機関や最先端産業の企業と連携し、自動走行や走行中無線給電、脱炭素テクノロジーなどの先端技術を社会実証・実装する近未来都市の形成を進めます。
- ・ 関西文化学術研究都市において構築された先端技術の社会実装モデルを、グレーターけいはんな広域連携プロジェクトとして相楽東部地域など他地域にも展開し、先端技術が実装された都市と田園が共存する地域をめざすとともに、京都府南部地域における人流の促進をはじめとする地域活性化につなげます。
- ・ 国内外から企業や研究者、支援機関、投資家等が関西文化学術研究都市に集う環境づくりを進めるとともに、産業技術総合研究所や公設試験研究機関等との連携のもと、課題解決から起業・資金調達支援までを担う組織体制の強化を図ります。

未来像⑪ 訪れる人と地域が交わり出会いが広がる京都

長い歴史の中で都として発展してきた京都には、国内外から人、もの、情報、文化が行き交い、豊かな交流が育まれてきました。こうした交流の蓄積を基盤に、広域周遊や夜型観光などを通じて新たな出会いを広げ、訪れる人も地域の人々も互いに交流の価値や魅力を実感できる京都を実現します。

● 観光産業の裾野を広げ、府域に新たな体験や価値を生み出す観光の創造

(主な方策)

- ・ 2025年日本国際博覧会（略称「大阪・関西万博」）を契機に構築した海外とのネットワークなどを活用しながら、より広域的なテーマ観光やストーリー性のある周遊観光を促進する「まるっと・じっくり関西プロジェクト」を京都市や近隣府県、関西広域連合、関西観光本部などと連携して推進します。
- ・ 豊かな自然と歴史が息づく特別史跡恭仁宮跡を広域周遊のハブと位置づけ、山城地域の文化財や景観、豊かな自然、食文化などの魅力を結び付けながら、多彩な観光ストーリーを紡ぎ、歴史・文化を体感できる「恭仁の都（くにのみやこ）回廊（仮称）」を創出することで、カルチャーツーリズム等による広域周遊を促進するとともに、遺跡の一部整備や発掘体験などの取組を通じて、文化財保護・学習・情報発信の拠点化を図るなど、文化資源活用を通じた産学官民連携の地域モデルの創出を進めます。
- ・ 社寺の夜間公開、伝統芸能、音楽、食、自然体験など、夜の過ごし方を府内各地で創出するとともに、安全・安心な受入環境などを整えることにより、年間を通じて楽しめる「京都の夜観光」を推進し、滞在時間の延長と宿泊、観光消費の拡大を図ります。

未来像⑫ 地域の食が誇りと豊かさをつなぐ京都

京都では、海や森など府内各地の産物が都を支え、食の文化を育んできました。その恵みは今も色あせず、地域ごとの魅力として輝き続けています。農林水産業の生産性と付加価値を高め、持続可能なものとして未来に受け継ぐことで、担い手が育ち、地域の誇りと豊かさが広がる京都を実現します。

● 農業・漁業・食品産業を核とした付加価値の高い農林水産業の構築

(主な方策)

- ・ 地域コミュニティの維持や産地維持に必要な人材を安定的に確保するため、子育て中の方やシニア世代などの地域住民をはじめ府内企業や大学、行政等の多様な人材がサポーターとして参画できる仕組みを構築し、農林水産業の繁忙期における仕事を支える体制づくりを進めます。また、営農の継続・発展が期待できる親元就農者等に対して、機械導入や設備整備を支援します。
- ・ 海洋センターを中心に多数の研究機関や企業が参画する「海洋データ活用プラットフォーム（仮称）」を新たに立ち上げ、産学公連携による革新的技術の開発や社会実装を行うことを通じて、漁業の持続性を高める取組や新たな海洋関連産業を創出する拠点として機能強化を進めます。
- ・ 定年後の就農や半農半Xの実践等を促すため、多様な働き方の提案や副業的に農林水産業を経営するための支援を強化するとともに、京都府生涯現役クリエイティブセンターと連携したリカレント教育の実施により技術習得を支援するほか、農林水産業の多様な担い手のモデルを発信することで、一人ひとりの希望に応じた働き方と、農林水産業の担い手確保、生産性向上を実現します。

● 景観や食文化を経済や交流につなげた農山漁村の魅力向上

(主な方策)

- ・ 生産者や料理人、大学・観光・文化関係者等が連携した生産過程のストーリー化や、土壌、水、気候、生態系に加え、地域固有の歴史や文化、生産者の技が農林水産物や食の個性を生み出す「テロワール」の視点による価値の向上により、担い手の所得向上、環境の維持・保全、住民の誇りにつながる持続可能な地域ブランドを育成します。
- ・ 京都の食文化や食材と最先端技術の融合により新たな需要を創出するとともに、府内農林水産物を活用した高付加価値型食品産業や、海洋データ研究成果を活用した環境関連産業の企業誘致を進め、「環境配慮型食品産業クラスター（仮称）」を形成し、農林水産業・食品産業のエコシステムを府内各地で展開します。

未来像⑬ 北部地域の多彩な魅力がつながり輝く京都

京都府北部地域は、日本海側の玄関口として古くから多様な文化が行き交い、歴史や自然、産業、食文化など豊かな資源が育まれてきました。人口減少が進む中でも安心して暮らせる環境が整い、多彩な魅力がつながり、住む人や訪れる人の交流から新たな価値やイノベーションが生まれる京都を実現します。

● 人口減少を乗り越え、挑戦と安心が循環する北部地域の推進

(主な方策)

- ・ 大学、金融機関、企業等と連携し、人材育成や技術開発、実証、起業、販路開拓などを支援するとともに、丹後天橋立ミュージアム等を核に、異業種交流や文化観光を展開するなど、北部を国内外の人材と企業が集まり、新しい価値を生み出す挑戦のフィールドへと進化させる「チャレンジステーションプロジェクト（仮称）」に取り組めます。
- ・ 古代から大陸との交流の窓口として栄えた北京都の歴史や和の源流となった文化などの地域コンテンツに加え、丹後ちりめん、地域の豊かな食、舟屋・天橋立等の観光資源などを掛け合わせた高付加価値な文化体験を満喫する「カルチャーツーリズムの聖地化プロジェクト（仮称）」を展開します。さらに、海の京都・森の京都の観光資源を活用して府北部地域の夜型観光を創出し、観光客等の夜間滞在を促すことで、稼ぐことのできる新たな観光圏を形成します。
- ・ 北部地域の企業が有する機械金属の加工技術等を生かした宇宙関連産業への参入に向けた取組や、丹後ちりめんの精練・加工技術に触れることが出来る機会の創出に取り組む「ものづくり産業深化プロジェクト（仮称）」を展開します。

未来像⑭ 人・モノ・情報が行き交い、活力があふれる京都

ネットワークは、府域すみずみまで人・モノ・情報を届ける基盤です。山陰近畿自動車道や新名神高速道路、京都舞鶴港などの広域ネットワークや地域の移動を支える地域公共交通等のインフラの整備や AI 時代に即した人への支援などにより、府域の均衡ある発展を図るとともに、府域と国内外がつながり、交流と活力が生まれる京都を実現します。

● 府域だけでなく国内外とも繋がる交通ネットワーク整備とリダンダンシーの確保

(主な方策)

- ・ 新名神高速道路の全線開通及び6車線化を促進するとともに、山陰近畿自動車道の早期全線開通に向け、京丹後大宮 I C ～（仮称）網野 I C間の整備及び（仮称）網野 I C ～（仮称）城崎温泉 I C間のルート確定を促進します。
- ・ 京都縦貫自動車道、京奈和自動車道、舞鶴若狭自動車道の暫定2車線区間の4車線化整備を促進します。
- ・ 取扱貨物量の増加や航路の拡充を見据えた舞鶴国際ふ頭における第2バースの整備とⅡ期整備を進めるとともに、大型クルーズ船の寄港に対応できる第2ふ頭の施設整備及び周辺緑地の再整備等に取り組みます。

● 人々の生活を支える地域公共交通の確保

(主な方策)

- ・ 今後の府域における交通政策の取組の方向性を示す「京都次世代モビリティ戦略」を策定し、国、府、市町村、事業者等と連携・協働を図るとともに、市町村等の地域公共交通計画の策定を支援し、人口減少や高齢化社会にあっても、誰もが気軽に移動できる地域社会を推進します。
- ・ 交通空白地の解消に向け、市町村やNPO等が運行する公共ライドシェア等の移動手段の導入に加え、複数の市町村や交通事業者の共同化・協業化等による取組、地域輸送資源の活用、地域交通のDX化を促進することにより、地域交通の「リ・デザイン」を各地で展開し、持続可能な地域交通の実現を図ります。

● AI時代にふさわしい誰もが安心してデジタル技術の恩恵を享受できる環境づくり

(主な方策)

- ・ 官民ともに不足するデジタル人材の育成・確保、地域への定着に向けて、人とAIとの共創力や、Web3.0関連技術の活用力向上に資する実践学習等により、デジタル社会に即した人への支援と関係人口の創出に取り組みます。

未来像⑮ 府市協調を更に深化させ府全域が発展する京都

40 年以上にわたって築き上げてきた京都府と京都市の協調関係を、府市トップミーティングを契機に更に深化させています。府市協調により行政課題を乗り越え、新たな施策が力強く進み、こうした成果が府内全ての市町村に広がることで、地域社会が更なる発展を遂げる京都を実現します。

● 府市協調を京都全体の成長エンジンとし、府域へ効果が広がる京都の実現

(主な方策)

- ・ 国内外の著名な研究者、文化人、芸術家、起業家等を中長期にわたり京都へ招へいする「KYOTOレジデンス拠点（仮称）」を京都市や経済界と連携して整備します。滞在・制作・研究環境に加え、大学、企業、文化機関、職人、学生等との共同研究や創作、講義、地域プロジェクトへの参画をオール京都で一体的に支援することで、京都での暮らしと交流から生まれた知見や作品を世界へ発信し、多彩な人材との継続的な関係と新たな研究、産業、文化を創出します。
- ・ 京都市が推進する文化ゾーンの更なる発展に向け、北山エリアの京都コンサートホール大規模改修を契機とした文化・交流拠点化、駅東部の京都市立芸術大学や京都駅南エリアに集積する文化芸術拠点、さらには駅西側の京都市中央市場や京都水族館、鉄道博物館などと連携した京都駅周辺の活性化をまちづくり、都市計画の観点から支援し、鴨川の魅力を活かしたプロジェクトを発展させます。
- ・ 府と京都市の職員を中心に、大学や企業が参加する「京都府市協働政策ラボ（仮称）」を開催し、文化経験・観光消費の地域還元、学生の府内定着等の共通課題について検討を行い、京都府・京都市の施策に反映するとともに、府内市町村が活用できる政策モデルとして横展開する仕組みを構築します。

地 域 振 興 計 画

山城地域振興計画（中間案）の概要

（地域のポテンシャル・重点プロジェクト）

1 地域のポテンシャル（魅力の源泉）

（１）都市と豊かな自然が共生する多様な地域特性

- ・山城地域には、人口が集積する都市部や、人口減少が進む一方で豊かな自然や農村景観が残る地域など、多様な特性を持つエリアがあります。都市近接性と豊かな自然環境は、多様なライフスタイルや働き方の選択を可能にし、移住・定住人口や関係人口の創出につながる、山城地域ならではの強みがあります。

（２）広域交通ネットワークと地理的優位性

- ・山城地域は、三重県・滋賀県・大阪府・奈良県に接し、新名神高速道路、京奈和自動車道、第二京阪道路、ＪＲ奈良線の複線化など広域交通ネットワークの機能強化や充実が図られています。今後、新名神高速道路の全線開通により、関西圏のみならず中京圏をはじめとした広域的な圏域へのアクセスが向上することから、人流・物流の拡大、産業の発展のポテンシャルがあります。

（３）世界をリードする研究開発拠点と産業集積

- ・最先端の研究機関や研究開発型企業が集積する関西文化学術研究都市に加え、ZET-BASEKYOTO やアート＆テクノロジー・ヴィレッジ京都（ATVK）など、産学公連携によるオープンイノベーションやスタートアップ創出の土壌があり、オンリーワンな技術や高度な技術力を有する多様なものづくり企業が数多く立地している強みがあります。

（４）宇治茶をはじめとする食と農のブランド力

- ・宇治茶や京やましろ新鮮野菜など多彩な農産物にも恵まれています。高いブランド力に加え、食関連産業や観光との連携による高付加価値化など、更なる発展の可能性を秘めています。

（５）歴史・文化・自然に育まれた地域資源

- ・平等院や石清水八幡宮、恭仁宮跡などの歴史・文化資産、桂川・木津川・宇治川などを中心とした豊かな自然環境など、多彩な地域資源が存在しています。これらは、多くの人を惹きつける地域の大きな魅力となっています。

2 地域のポテンシャルを活かした重点プロジェクト

山城地域のポテンシャルを最大限に活かして、以下の重点プロジェクトを展開します。

（１）多様なエリア特性と広域ネットワークを生かした地域づくりプロジェクト

- ・木津川右岸地域において、新名神高速道路や鉄道などの広域交通ネットワークや、それらを結ぶ道路ネットワークの強化・充実を図り、人流・物流・産業の拠点形成を進めます。
- ・関西文化学術研究都市において、フードテックやロボティクス等、特徴あるテーマを設定した研究開発拠点の形成を進めるとともに自動運転バスをはじめとする次世代モビリティの社会実装モデルを構築します。あわせて、関西文化学術研究都市の成果を相楽東部地域にも展開し、未来技術が実装された都市と田園が共存する地域を目指すとともに、京都府南部地域における人流促進や地域活性化につなげます。
- ・宇治川沿川や乙訓などの京都市近郊の都市エリアでは、新市街地整備や都市基盤整備、都市近郊型農業の振興などを通じて、多様な産業と良好な住環境が調和した地域づくりを推進します。

（２）人を惹きつける交流・関係人口の創出プロジェクト

- ・山城地域の歴史・文化・自然などの多彩な地域資源を生かした周遊・滞在型観光を推進するとともに、お茶の京都DMOや市町村等と連携し、舟運をはじめとした様々なコンテンツやモデルコースの造成、受

入環境整備、地域食材を活用した「食」を中心とする観光周遊の取組を進め、観光入込客数の増加と観光消費額の拡大を図ります。

- ・空き家調査や活用提案を通じた空き家の発掘支援、「空家バンク」への登録促進、不要家財の撤去や家屋改修支援により、空き家の利活用と移住者の受入体制の強化を進めるとともに、相楽東部地域におけるサテライトオフィス等の活用促進や企業誘致、地域住民との交流・地域活動への参加を促進し、外部人材の確保や移住・定住、関係人口の拡大を図ります。
- ・整備が進む「京都アリーナ（仮称）」をはじめとするスポーツ・文化拠点を活用し、スポーツ大会や文化イベントを契機とした交流を促進します。

（３）地域ブランドを核とした食産業の振興プロジェクト

- ・全国ブランドである宇治茶や京やましろ新鮮野菜をはじめとする地域資源を生かし、生産振興と販路拡大を進めます。生産基盤の整備や担い手育成を進めるとともに国内外に向けた情報発信を強化し、山城地域が誇る「食」のブランド力向上を図ります。
- ・ＡＩなどの先端技術を活用したスマート農業や農商工連携を推進するとともに、新たに開設する「京都プレミアム中食オープンイノベーションラボ（仮称）」において、企業や大学と連携し、機能性食品等の加工研究や未利用資源の活用に関する共同研究を推進するとともに、販売戦略に応じて、企画から試作、分析まで一気通貫で国内外での競争力を備えた付加価値の高い商品開発を支援します。

（４）産学公連携によるイノベーション創出と産業振興プロジェクト

- ・関西文化学術研究都市を中心に、けいはんなフードテックヒル（仮称）の形成のほか、ロボティクス等、特徴あるテーマを設定した研究開発拠点の形成を進めます。また、関西文化学術研究都市等の研究機関や企業と連携し、自動走行や走行中無線給電、フィジカルＡＩ、脱炭素テクノロジーなどの先端技術の社会実証・実装を進めます。
- ・ZET-BASEKYOTO等を拠点とするZET-valley構想を核として、スタートアップをはじめ、脱炭素関連企業の育成を進めます。多様な主体の交流と共創を促進し、脱炭素社会の実現に資する技術の創出やイノベーションに取り組む企業の集積を図ります。
- ・アート＆テクノロジー・ヴィレッジ京都（ATVK）を核として、アートとテクノロジーの融合により新産業の創出を目指し、異業種・異分野によるオープンイノベーションを推進するとともに、経営スキルの向上を図る「若手経営塾」の開催や、「アート経営」を専門とした大学との共同研究により、新たな産業と価値を生み出す人材の輩出を目指します。
- ・異業種交流ネットワーク「京都やましろ企業オンリーワン倶楽部」を中心に、企業間の交流・学び合いを促進するとともに、次世代を担う経営人材の育成に取り組み、山城地域における新たな事業創出やイノベーションを促進することで、企業の競争力強化を図ります。

（５）安心・安全な暮らしの基盤づくりプロジェクト

- ・市町村や関係機関と連携し、親子の交流機会の創出や子育てに関する学び・相談、情報発信を通じて、地域全体で子どもや子育て家庭を見守り支える気運を醸成するとともに、若者が乳幼児やその保護者と触れ合う機会づくりや親子が安心して過ごせる居場所づくりなど、市町村による子育てにやさしいまちづくりを支援します。
- ・「住み慣れた地域で自分らしく生きる」一人ひとりの思いを支えるため、デジタル技術も活用しながら在宅医療・介護サービス提供体制を確保するとともに、医療・介護・福祉関係機関や市町村と連携し、難病対策や認知症施策を含めた地域包括ケアの充実を推進します。
- ・頻発化・激甚化する自然災害に備え、河川改修や道路整備などのハード対策と、防災教育、防災士の養成、個別避難計画の作成促進などのソフト対策を一体的に推進します。地域全体の防災力を高め、安心・安全な暮らしを支える基盤づくりを進めます。

南丹地域振興計画（中間案）の概要 （地域のポテンシャル・重点プロジェクト）

1 地域のポテンシャル（魅力の源泉）

（１）良質な「食」

- ・京都丹波地域は、千年以上にわたり京の都の食文化を支える食材の一大供給地であり、京のブランド産品（農産物）の出荷額は府内の約４割、畜産物の産出額は府内の約６割を占めています。
- ・新丹波黒、丹波大納言小豆、丹波くりをはじめ、あゆ、そば、ジビエなど四季折々の特産物に恵まれ、食が地域の魅力として定着しつつある中、地域産品のブランド化や食を目的とした観光誘客など、更なる多様な展開の可能性を有しています。

（２）豊かな自然と歴史文化

- ・京都丹波高原国定公園や芦生の森をはじめとする広大な森林、桂川・保津川の水辺空間、茅葺きの美しい里山景観など、都市近郊でありながら豊かな自然環境が広がっています。
- ・また、亀岡祭山鉦行事や田原の御田、和知人形浄瑠璃等、歴史的な行事や伝統芸能が数多く伝承されており、自然と歴史に育まれた文化が地域の魅力を生み出しています。

（３）多様なスポーツ資源

- ・府立京都スタジアムや府立丹波自然運動公園、京都トレーニングセンターなどの府の中核的なスポーツ拠点が所在し、スポーツを「する」「みる」「ささえる」ための環境が整っています。
- ・さらに、豊かな自然環境や地形を生かしたウォーキングやサイクリング、ラフティング、パラグライダー等のアウトドアスポーツが普及し、健康づくりや交流促進にもつながっています。

（４）地域の未来を切り拓く人材

- ・農業や林業をはじめとして商工業、観光、教育、文化芸術、スポーツなど幅広い分野で、地域資源を生かした商品開発や地域課題の解決、地域コミュニティの活性化などに取り組む「キラリと輝く人材」が活躍しており、明日の京都丹波を担う地域の財産となっています。
- ・京都先端科学大学、明治国際医療大学など、食農分野をはじめ環境、ものづくり、医療、建築等の特色ある大学や大学校等が所在し、多様な人材が学び、活躍できる環境が整っています。

（５）広域交流を支える交通ネットワーク

- ・京都府の中央に位置する京都丹波地域は、古くから府中北部と京阪神地域を結ぶ交通の要衝として発展してきました。平成 22（2010）年 3 月の J R 山陰本線京都一園部間の複線化、平成 27（2015）年 7 月の京都縦貫自動車道の全線開通等、鉄道と道路の整備により京阪神主要都市との交通の利便性は飛躍的に向上し、交流人口の拡大や企業立地を支える基盤整備が進んでいます。

2 地域のポテンシャルを活かした重点プロジェクト

京都丹波地域のポテンシャルを最大限に活かして、以下の重点プロジェクトを展開します。

（１）京都丹波・食と緑のウェルビーイングプロジェクト

- ・道の駅等の集客拠点が連携した一体的なプロモーションの実施により、「心身の健康を育む食と緑の地域」というブランドイメージの浸透を図ることで、地域の認知度向上と誘客促進につなげます。
- ・東洋医学における、よりよく健康に、楽しく生きる「養生」の考え方にに基づき、豊かな森や清流、食文化など京都丹波ならではの地域資源を生かし、訪れる人々の心と体を整えるウェルネスツーリズムを推進します。

- ・四季折々の旬の食材を用いたグルメや有機農業等による農産物・加工品など健康志向に対応した商品の開発や販売を促進し、地域産品の高付加価値化を推進します。

(2) 自然・歴史文化等の地域資源を生かした体験・都市農村交流プロジェクト

- ・豊かな自然や歴史文化など特色ある地域資源を生かし、子どもたちの京都丹波ならではの探究的な学びや体験機会を創出する「京都丹波STEAM（仮称）」を推進します。
- ・地域外からの教育体験の受入れを推進し、地域外の子どもたちと地域住民との持続的な交流を生み出すことで、若年層を中心とした都市部住民の京都丹波への関心を高め、将来にわたって地域と多様な形で関わる関係づくりを促進します。

(3) 京都丹波スポーツライフプロジェクト

- ・府立京都スタジアムや府立丹波自然運動公園、京都トレーニングセンターなどのスポーツ拠点や、豊かな自然環境を生かし、誰もが生涯を通じてスポーツに親しめる環境の充実を図り、府民の健康・体力づくりを進めます。
- ・スポーツ大会やスポーツイベント、合宿等の誘致に取り組むとともに、ウォーキングやニュースポーツ、eスポーツ、パラスポーツ等を推進し、世代や障害の有無を問わず、スポーツを通じて多様な交流機会を創出します。

(4) 京都丹波の輝く担い手応援プロジェクト

- ・未来の地域産業を支える人材が、京都丹波で働くこと、住むこと、そして新たな挑戦にかける思いを地域内外に発信する「京都丹波の輝く担い手交流会（仮称）」を開催するなど、人材交流と活動発信の場づくりを進め、京都丹波で新たなことにチャレンジする機運を醸成します。
- ・市町の地域商社、商工関係団体等と連携し、京都丹波で輝く担い手のこだわり商品の商談会を開催するなど販路開拓を支援します。
- ・高校、高等教育機関等と連携し、京都丹波で輝く担い手の活動紹介やワークショップ等を通じて京都丹波で働くことの魅力発信を進めます。

(5) 安心・安全と地域活力を支える基盤づくりプロジェクト

- ・京都縦貫自動車道からのアクセス道路など地域の生活や地域産業を支える交通ネットワークの整備を進めます。
- ・治水安全度の向上に向けた河川整備をまちづくりと一体的に推進するとともに、水害等に備えた自主防災組織の避難行動タイムラインの作成支援や、若年層の防災意識の向上と消防団活動への理解促進のための防災教室の開催などを通じて、地域防災力の向上を図り、災害に強い地域づくりを推進します。

中丹地域振興計画（中間案）の概要 （地域のポテンシャル・重点プロジェクト）

1 地域のポテンシャル（魅力の源泉）

（１）安心・安全・共生の基盤

- ・由良川水害の経験を踏まえた流域治水の取組や、自主防災組織の高い組織率、原子力防災への備えなど地域の安心・安全を支える基盤に加え、地域医療体制の充実や外国籍住民との共生に向けた取組などが進められており、誰もが安心して暮らし続けられる地域の強みとなっています。

（２）学びと若者・人材育成

- ・福知山公立大学、舞鶴工業高等専門学校など、地域の学びと産業をつなぐ高等教育・人材育成機関が立地し、若者が地域課題や企業活動に関わりながら実践的な知識・技術を身に付ける環境が整っているとともに、地域外の大学等のフィールドワークや地域連携活動の受入れも行われており、多様な人材の交流を通じて新たな価値創出が進められています。

（３）ものづくり・雇用・産学公連携

- ・長田野工業団地、綾部工業団地等を中心に、多様なものづくり企業が集積し、高度な技術や製造ノウハウが蓄積されているとともに、日本海側の物流拠点である京都舞鶴港を有し、北部産業創造センターをはじめとする産学公連携の推進や、今後整備される農林水産技術センターの次世代農林水産業・フードテック実証拠点機能を生かした研究開発や技術実証を進められる予定であり地域産業の発展を支えるポテンシャルを有しています。

（４）子育て・医療・暮らしやすさ

- ・大江山、由良川、舞鶴湾などの豊かな自然環境に加え、地域医療を支える医療提供体制、暮らしを支える生活機能、地域ぐるみの子育て支援ネットワークなどを背景に、福知山市、舞鶴市及び綾部市は合計特殊出生率が京都府内でも上位に位置するなど、安心して子どもを産み育て、健康に暮らし続けることができる地域であることが強みとなっています。

（５）観光・交流・地域ブランド

- ・福知山城、福知山鉄道館フクレル、舞鶴赤れんがパーク、あやべグンゼスクエアなどの観光拠点に加え、クルーズ船・フェリーの玄関口機能を担う京都舞鶴港が立地しているなど、多様な来訪者を受け入れ、地域内へ回遊させる交流資源があり、これらの資源を生かした周遊環境の形成により、地域全体の魅力を体感できる観光・交流エリアとしての発展が期待できます。

2 地域のポテンシャルを活かした重点プロジェクト

中丹地域のポテンシャルを最大限に活かして、以下の重点プロジェクトを展開します。

（１）安心してともに暮らせる中丹プロジェクト

- ・気候変動の影響により今後の降雨量の増加が見込まれることを踏まえ、流域のあらゆる関係者が協働し、ハード・ソフト一体で実施する流域治水の取組を推進します。
- ・大規模災害時の自衛隊、警察、消防等防災関係機関の応援隊の集結や救援物資輸送の集配などを担う京都舞鶴港の広域防災活動拠点の機能強化を図るとともに、関係機関と連携した防災訓練を実施します。
- ・中丹地域医療構想調整会議において、外来医療、在宅医療、介護との連携、人材確保等を含めた地域の医療提供体制の課題について協議し、解決に向けた取組を進めます。

(2) 若者が未来を拓く中丹プロジェクト

- ・福知山公立大学や舞鶴工業高等専門学校をはじめ、中丹地域に関わる高等教育機関、高校、地域企業、行政等が連携し、若者が地域課題や企業活動、地域活動に関わる機会を拡充します。
- ・小中学生や高校生が地域の産業や暮らし、文化に触れ、学ぶ機会を充実させるとともに、学校、地域企業、地域団体、行政など多様な主体との連携を通じて、地域への理解と愛着を育み、地域の未来を拓く人材を育成します。
- ・企業見学や職場体験、保護者への効果的な情報発信などを通じて、地域企業への理解促進を図るとともに、企業の採用力向上や働きやすい職場づくりを支援し、若者の地元就職と定着の促進につなげます。

(3) ひと・ものを生み出す中丹プロジェクト

- ・A Iをはじめとする先端技術やグローバル化に対応できる人材を育成するため、高等教育・人材育成機関、地域企業、行政等が連携した実践的な学びを推進し、地域産業と地域社会を支える次世代人材の育成を進めます。
- ・農林水産業、ものづくり産業をはじめとする地域の産業の高付加価値化と持続的発展に向け、農林水産技術センターの次世代農林水産業・フードテック実証拠点機能を活かした研究開発、技術実証、技術普及及び人材育成、北部産業創造センターにおける技術開発や事業化への支援並びにインフラ・物流基盤の強化を進めます。
- ・高等教育・人材育成機関、企業、行政が連携し、若者から社会人、シニア世代まで、学び直しやリカレント教育に加えて、新たな産業創出に取り組める環境づくりを進めます。

(4) 暮らしやすさが魅力の中丹プロジェクト

- ・妊娠・出産期から乳幼児期、学齢期までの相談支援や子育てに理解のある職場づくり、地域での見守りを進めるため、交流会などの機会づくりを行うなど、「中丹子育て未来づくり 100 人会議」により、地域全体で子育て世代を支える環境づくりに取り組みます。
- ・外国人住民や外国人労働者の増加を踏まえ、関係機関と連携し、地域での日本語教育や交流機会の充実を通じて、外国人住民が地域社会の担い手として活躍できる多文化共生社会づくりを進めます。
- ・管内3市との移住促進ネットワークに加え、京都移住コンシェルジュや北京都ジョブパーク等と連携し、移住・定住情報の共有、仕事や住まいに関する相談、地域とのマッチング、空き家・空き店舗の活用を進めます。

(5) つながりと魅力が広がる中丹プロジェクト

- ・福知山市ファームガーデンやくの（道の駅「農匠の郷やくの」）や舞鶴赤れんがパーク、あやべグンゼスクエア等の地域資源を生かした周遊観光や滞在型観光の充実、体験型観光の展開を通じて、地域のにぎわいを創出するとともに、関係人口の拡大につなげます。
- ・大野辺緑地をはじめとする港湾エリアの魅力向上や利活用を進めるとともに、交流やにぎわいを創出し、市民や来訪者に親しまれるウォーターフロントづくりを進めます。
- ・全国でも高い評価を受ける中丹地域のお茶をはじめ、地域で育まれてきた特産品や、黒谷和紙、丹後和紙、丹波漆などの伝統産業の技術や文化を次世代へ継承するとともに、大学生をはじめ企業や行政等の多様な若者が参画し、地域課題の解決や地域の魅力向上に取り組むプロジェクトを推進します。

丹後地域振興計画（中間案）の概要 （地域のポテンシャル・重点プロジェクト）

1 地域のポテンシャル（魅力の源泉）

（１）防災分野における連携協力体制と交通基盤の整備

- ・近年頻発する豪雨等災害の経験を踏まえ、行政、関係機関、地域の自治組織、関連団体と連携協力し、防災活動に取り組む機運が高まっています。
- ・京都縦貫自動車道や舞鶴若狭自動車道により関西・中京圏とのアクセスが向上し、山陰近畿自動車道の整備進展も期待されます。京都丹後鉄道と合わせた交通基盤は、交流人口の拡大や観光振興、地域経済のさらなる発展を支える重要な強みとなっています。

（２）誰もが生き生きと活躍するコミュニティの形成

- ・自然環境や住宅環境等の豊かさ、また顔の見える関係性の近さが、合計特殊出生率が京都府や全国平均に比べ高い水準になるなど子育てのしやすさにつながっています。
- ・100歳以上の長寿者割合が高く、多くの高齢者が農林水産業や地域活動、伝統文化の継承に携わるなど、生涯にわたり活躍する地域風土が根付いています。健康長寿と豊かな地域コミュニティは、丹後地域ならではの貴重な人的資源となっています。

（３）丹後地域の魅力発信と愛着の醸成

- ・行政、関係団体等と連携した移住定住支援体制や地域の受入れ環境の整備が進展するとともに、若者活躍に向けた地域の魅力発信の仕組みが構築できていることが強みです。
- ・郷土教育や探究活動など、各学校において児童・生徒一人ひとりの主体性を大切にした教育活動が展開されています。

（４）人々を魅了する自然景観やロマンあふれる歴史・文化

- ・天橋立や伊根湾、山陰海岸など世界に誇る自然景観と豊かな地質遺産、170を超える温泉資源を有しており、海・山・川が織りなす多様な自然環境と四季の変化は、観光や農林水産業、ものづくりを支える大きな地域資源となっています。
- ・古代から大陸交流の拠点として栄え、「丹後王国」の歴史や古墳群、伝説・民話、舟屋群やちりめん街道など多彩な歴史文化資産が今も息づいています。地域固有のストーリー性に富んだ文化資源は、観光振興や地域ブランド形成の大きな強みとなっています。

（５）豊かな食やものづくりの伝統・技術

- ・丹後産コシヒカリやブランド京野菜、丹後産フルーツ、間人ガニ、伊根ブリなど豊かな食資源に加え、300年の歴史を持つ丹後ちりめんや高度な技術力を誇る機械金属産業が集積しています。伝統と先端技術が共存する産業基盤は、地域経済の持続的な発展を支える大きなポテンシャルを有しています。

2 地域のポテンシャルを活かした重点プロジェクト

丹後地域のポテンシャルを最大限に活かして、以下の重点プロジェクトを展開します。

（１）災害に強い安心・安全な丹後地域構築プロジェクト

- ・豪雨災害による被災箇所の早期復旧に取り組むとともに、豪雨や地震などの災害による被害を食い止め、地域住民の安全な暮らしを確保するため、道路の強靱化と維持管理を行うとともに、河川整備や治山対策を推進します。

- ・地域住民の安全を守るため、丹後大震災 100 年を契機として、丹後全域で避難訓練を推進するとともに、市町や関係機関と連携し、防災意識向上のための啓発やタイムライン作成支援、防災リーダー研修等を実施するとともに、防災人材の活用や情報伝達体制の充実、防災体制を充実・強化します。
- ・観光客等関係人口の安全を守るため、地域や関係機関と連携し、観光危機管理の取組を進めます。

(2) あらゆる人の笑顔があふれる丹後地域づくりプロジェクト

- ・安心して産み育てられる子育て環境を充実させるため、子どもの居場所づくりやコミュニティの場づくりに取り組みます。
- ・住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境を確保するため、府立医科大学附属北部医療センターの機能強化等、医療提供体制の整備と医療・介護・福祉一体型の地域包括ケアシステムの充実に必要な連携体制の構築に取り組みます。
- ・地域住民や訪問者の移動手段を確保するため、Ma a Sの活用による公共交通利便性の向上を図るとともに自動運転バスの実証を実施します。

(3) 丹後地域を支える人材確保・育成プロジェクト

- ・地域の活力の源となる若者や女性が丹後地域に住み続けたい、戻ってきたいと思える地域づくりを進めるため、「丹後わかもの夢実現プロジェクト」の取組を推進し、丹後で頑張る若者の夢や希望が実現できる取組や未来の丹後を切り拓く担い手づくり等を推進します。
- ・地域産業や地域活動を支える人材を確保するとともに、多様な人材が互いに認め合いながら活躍できる地域を実現するため、人材確保・育成の取組を実施し、多様な主体が参画できる環境を整備します。
- ・将来を担う若者が地域に定着し、地域社会を支える人材として成長できるよう、教育機関や地域と連携し、郷土への誇りと愛着を育む質の高い教育を提供するとともに、若者目線での情報発信や起業支援に取り組みます。
- ・移住希望者の増加や関係人口の更なる創出を図るため、移住者が安心して地域に定住できる受入体制や生活環境を整備するとともに、地域の魅力ある人材との交流を促進します。

(4) 「海の京都」深化プロジェクト

- ・丹後の豊かな自然、歴史・文化、食、ものづくりなどの地域資源の価値を高め、観光消費の拡大と滞在時間の延長につなげるため、地域ブランドを強化するとともに、これらの資源を活用した宿泊・体験型観光を展開します。
- ・ランドマークである天橋立の世界遺産登録に向けた取組を進めます。
- ・丹後天橋立ミュージアムを拠点とした周遊観光の取組を進め、丹後地域が有する歴史・文化・自然の価値を国内外に発信するとともに、来訪者の周遊促進につなげます。

(5) 地域が誇りを持てる活力ある産業づくりプロジェクト

- ・農林水産業の生産性と収益性を高め、持続可能な農業経営を実現するため、農地の集積・集約化や基盤整備、有害鳥獣対策を進めるとともに、気候変動に対応した品種やスマート技術の導入、地域の観光産業との連携強化を実践します。
- ・地域の基幹産業であるものづくり産業の競争力を強化し、持続的な発展につなげるため、他産地や異業種との連携体制を構築し、高付加価値化や新分野展開に取り組む事業者を支援します。